分野別意見交換会報告書　【 民生常任委員会 】

開催日時:　令和8年(2026年)8月21日（金）13時30分～15時30分

開催場所:　箕面市役所 委員会室

団 体 名 :　①箕面市居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所連絡会（ケアマネ連絡会）

②箕面市訪問介護事業所連絡会（ヘルパー連絡会）

出 席 者 :　①3名、②3名

出席議員:　中嶋委員長、吉田副委員長、金森委員、竹内委員、浦川委員、岡沢委員

傍聴者数:　委員外議員3名

テ ー マ :　「在宅支援の現状と課題について」

番号	項目	内容
ヘルパー連絡会		
1	連絡会の活動	コロナ禍を契機に、事業所間の横のつながりの必要性から連絡会を設立。市内約60事業所のうち約30事業所が参加し、月1回の交流カフェなどを通じて情報交換を行っている。
2	ヘルパーの役割と課題	高齢者だけでなく、障害者や子どもなど幅広い世代の在宅生活を支えている。一方で、「ヘルパーは家政婦ではない」という制度への理解不足から、サービス範囲外の対応を求められることもある。
3	人材確保・定着	ヘルパーの高齢化や若年・中年層の不足により、利用したくても利用できないケースが生じている。大学生がヘルパーとして働いている事例もあり、若者に届くPRや職業イメージの向上、市の資格取得・就職支援制度のさらなる周知が求められる。
4	事業継続・報酬	最低賃金や人件費が上昇する一方、介護報酬や移動支援等の報酬単価が十分に追いついておらず、事業継続が厳しいとの意見があった。特に移動支援について、市の報酬単価の見直しを求める声があった。
5	行政手続き・運用	実績記録表の押印などについて細かな確認が求められ、再提出等が事業者の負担となっているとの意見があった。また、身体介護の有無について窓口対応によって判断に差があるように感じるとの指摘があり、基準や運用の確認を求める声があった。
ケアマネ連絡会		
6	連絡会の活動	平成17年に設立され、現在51事業所が参加。研修、情報共有、多職種連携、DXの推進などを通じて、ケアマネジャーの資質向上や事業所間の連携に取り組んでいる。
7	業務負担・シャドウワーク	身寄りのない高齢者への対応など、ケアマネ本来の業務を超える「シャドウワーク」が増えている。金銭管理、薬の受け渡し、救急搬送への対応、徘徊時の対応、ゴミ処理などを担うケースがあるとの説明があった。

番号	項目	内容
8	人材確保・定着	新規採用が難しいだけでなく、現在働いているケアマネを辞めさせないことが重要との意見があった。資格取得・研修への補助や研修場所の確保など、働き続けられる環境整備を求める声があった。
9	行政手続き・DX	紙での申請や窓口への持参が負担となっており、オンライン化を進めてほしいとの要望があった。また、要介護認定更新時の調査についても、他市の事例を参考に運用を緩和してほしいとの意見があった。
10	身寄りのない高齢者・在宅支援	ごみ出し、徘徊時の捜索、死後事務など、家族が担ってきた役割をケアマネが担わざるを得ないケースが増えている。自治体や社会福祉協議会等が中心となった支援体制を構築し、住み慣れた自宅で生活を続けられる在宅支援を充実させる必要性が示された。